

平成31年2月28日

上島町教育委員会
教育長 濱田 和保 様

上島町立弓削中学校
校長 田窪 鉄哉 印

平成30年度 学校関係者評価報告書

- 1 開催日時 平成31年1月30日（水）14:00～15:00
- 2 参加者 委員7名、中学校教職員3名
- 3 協議内容 評価結果・改善方策等、学校側の説明を聞いてからの意見交換・感想

(A委員より)

○ 地域の方々や保護者から弓削中についてはいろいろな話を聞いているが、マイナス面の話は出てきていない。部活動や学校生活においてトラブルが起きた際にも、丁寧に対応してくれて助かっているという話を聞いている。家庭学習の評価が低い、小学校に於いても習慣づけが大切であると考えており、現在協議している。授業に関する評価が低い、それに対してどう考えているかという質問があり、中学校からは授業参観の頻度が低いので、学校開放デーや開放ウィークリーを設定するなどして、授業を見に来ていただく機会を増やすことを考えていると回答があった。小学校においては、あまり格差がないが、中学校では格差が出てくる。子どもは、子ども達の中で伸びてくる。他者との関わりの中で伸びてくると思うので、そういった活動を計画的、意図的に実践していく必要がある。学習における基礎・基本や主体性、コミュニケーション能力等において、認知的な面だけでなく、技能的な面や心情的な面を身につけさせることは大切である。

(B委員より)

○ 学習に関する評価が低い。一人一人を大切にされた授業が行われているとは思いますが、もう少し学習形態を工夫して、一斉指導だけでなく個人、グループをベースとした授業を実践していくことが大切ではないか。参観日において、教科に関する授業をもう少し公開する必要があるのではないか。授業の在り方についても職員研修等でもう少し共通理解していく必要がある。アンケートの結果が、教師、保護者、生徒でA, B, Dという所があるが、どれが正しいのかしっかり検討してほしい。生徒、保護者についてはあくまでも参考意見としてとらえ、その事に対して教師がしっかり評価していくことが大切である。学力調査の結果や、学校行事の結果などアンケートの項目以外でも評価の視点をもっていくことが、透明性、客観性であったり高い学校評価につながる。

(C委員より)

- 家庭においても子どもの状況の把握があまりできていないことがある。あいさつに関しては、学校ではできているが、地域ではあまりできていないように思う。できていない所をもう一度振り返らせる手立てを考える必要がある。忘れ物についても学校だけにまかせるのではなく、家庭でもしっかり見ていきたい。

(D委員より)

- 全国学力学習状況調査の結果から見て、もう少し基礎・基本に力を入れてほしい。教師の評価において、低い評価があるが、どうだろうか。教師はきちんとできて当たり前なのではないか。できていない教師に対する改善方策を考えてほしい。

(E委員より)

- 生徒数が少ない割には、生徒も先生もよく頑張っているのではないか。ケーブルテレビで行事等の様子をよく見るが、よくやっていると思える。子ども達が元気で明るく頑張っている姿を見られるのが一番である。PTA活動でも人数が少ない中でよく頑張っている。PTAが学校に全面協力をしなければ、学校も大変だし、子ども達の元気な姿が見られなくなるのではないか。

(F委員より)

- 評価委員会の資料の中に、去年の評価に対する取り組みがないので、それに対する改善の取り組みが行われているのかどうか分からない。目標指数を設定するなどして、もう少し具体的な目標を立てて、そのための努力目標をつくり、それに対するより具体的な対策や評価があればもっとわかりやすくなるのではないか。

(G委員より)

- 保護者の評価の結果が高校の評価の結果と似ている。生徒においては、高校生になると、自分でやっていかなければならないという自覚ができていくときである。今年の新入生の中には、入学したときからよくできているなという生徒が何人かいるのには驚いた。中学校での指導があって、高校1年、2年、3年と伸びていけるのではないか。指標に対して達成できるようにするのは大変なことだと思うが、マニフェストをつくってやってほしい。教育相談の中でのスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの有効な活用について知りたい。